

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会
(事務局：全国私立学校教職員組合)
No.18 2021年10月18日(月)

「数々の保護者や教員、生徒が知恵を出し合い 前進していくことへの希望が見えました。」(父母感想より) 全国父母懇交流集会の成功を力に 署名運動の動きを強めよう!!

26都道府県312名が参加した「2021年全国父母懇・私学助成をすすめる会交流集会オンライン大会」の成功から、早くも一週間が経過しました。その集会の熱、学びの内容を県内に届けた「福岡県私学助成をすすめる会NEWS」が事務局に届きました。全国各県においてもこうした動きをつくり、今年の私学助成署名運動を活性化させましょう!! 呼びかければ、とりくみは必ず広がります!!

右は、10月15日(金)に福岡から届いた、県「私学助成をすすめる会NEWS」です。10日開催の「全国交流集会」の様子が、全体集会と筆者が参加された分散会の様子が、克明に記されています。

このように、他県と出会ったこと、他県の様子、学んだ内容を県内に届け広げることが、秋の私学助成運動のエネルギーを生み出します。自県だけでは気づかなかった工夫、他県の熱を広げることが、秋の運動の主体者を増やしていくことにつながります。

大阪：秋桜高校、北海道：北星学園女子高校、東京：大東学園高校、熊本：高フェス実行委員高校生が「ジブングト」として本気でとりくみ発信しているレポートなど、各県の運動にとって新たな視点となる内容です。

また、コロナ禍による困難さの中で、できないことを数えるのではなく、「できることは何か?」と工夫を出し合い署名活動や集まることをすすめている県の実例・教訓なども各県の父母・教職員に拡げることが、この後の署名運動のエネルギーになります。この「すすめる会」ニュースのように、全国交流集会で学んだことを県へ還流し、具体的なとりくみを提起して、動きをつくりましょう!!

<「全国父母懇交流集会」 分散会 参加者感想より>

- ・保護者が繋がること、先生とも繋がること子どもを見守り育てることになると改めて感じました。
- ・東京でも子どもたちにこの活動について興味を持ってもらうきっかけを探っていけたらと考えました。
- ・宮城の工藤さんによる発表も大阪の秋桜高校の先生と生徒による発表も、前向きなものばかりでコロナ禍にあって「できないことに不平を言うのではなく、できることを探して実行する」ことの大切さを2本のレポートから学ばせていただきました。
- ・北海道の北星女子の活動は圧巻でした。様々な方を巻き込むにはまずは発信力!改めてそう思いました。

東京63!! 千葉・神奈川12 青森9 広島6 実態を発信し制度拡充の大きな力に 9月末「学費滞納・経済的理由による中退」調査 積極的なとりくみを10月末までに展開しよう!!

経済的理由による中退が減少する一方、学費のため、進学資金のためのアルバイトの実態はまだまだ少なくありません。こうした実態・事例を発信していくことを制度拡充につなげます。「400校」集約に向けた全国の奮闘を求めます!! 東京からはすでに63校分が届きました。県内全私学をめざしつつ過半数は集約しましょう。

福岡県私学助成をすすめる会 NEWS

2021, 第2号 令和3年10月15日 発行

*今年度の署名活動へのご協力ありがとうございます

2021.10.10「全国父母懇」が2年ぶりオンラインにて開催

昨年はコロナ禍のために「北海道札幌大会」が中止。今年度は、全国父母懇交流集会実行委員会が企画・運営し、オンライン父母懇が実施されました。



Zoomにて参加(参加費無料)とし、福岡からも教員・父母合わせて7名が参加しました。全体での参加者(申し込み段階)300名を越えました。実質的な参加者は240名ほど?

14時からの全体会は実行委員長の挨拶で始まり、全国私学助成をすすめる会共同代表の山口氏(全国私教連中央執行委員長)から「私学の無償化の実現と私学の更なる発展を目指す」取り組みを進めていきたいと思いますとの基調報告と私学と私学助成をめぐる情勢についての分析と報告がありました。2020年度より始まった就学支援金をめぐる各県の制度拡充についての分析では、愛知のように県独自の制度により年収720万円の世帯まで就学支援金が拡充されているところもあるが、福岡県のように年収590万以上に県独自の制度(上乗せまたは拡充)がないところが6道県もあり、自治体によって拡充・独自制度の上乗せなどの格差が大きく、福岡県でも支援金の拡充や独自補助への取り組みを求めていくことが急務であると感じました。

15時過ぎからは3つの分散会に分かれ、16時30分まで各テーマ別に複数の小分科会が開かれました。私(加治屋)は、第一分散会「私学助成制度・運動を学ぶ」の①の分科会で、「通信制高校の現状・父母目線の私学助成の重要性」「青森県の私学助成運動」の2本のレポートを受け討議に臨みました。参加者は12名程でした。特に1本目の「通信制高校の現状・・・」については色々と考えさせられる点が多くありました。発表者のお子さんは望まない状況で通信制の高校に進学しました(現在2年生)。しかし、年間の学費が約100万円、補助は授業料分約20万円に対してのみ。借金してでもと頑張ってみたが、かなり無理な面あり・・・。現行のシステムでは救う道なく、すすめる会に相談。通信制高校の現状に理解と支援を・・・とのこと。全日制の経験しか無い我々にとってはなかなか難しい問題です。しかし、日本の若いトップアスリートや芸術家(バレリーナや音楽家など)で通信制を利用している人は増えています。需要は増えているが、高額な学費の負担の問題など、現行の補助金の制度の盲点になっているとのこと。今年、ようやく教員として現役を退き、あのつらい教員生活から解放された身ですが、超現代的な問題に触れ、久々に良い勉強になりました。頑張りましょう。

▽今年も福岡の「私学助成をすすめる会」の署名活動が始まりました。私は、この時期毎年、卒業生や知り合い、かつての同僚などに、私の近況や署名の主旨などを書いたオリジナルのニュース?と、一人3枚の署名用紙を返信用の封筒(切手貼付)をつけて、無理矢理送りつけます。毎年、毎年ごめんなさい皆さん。

▽さぞかし皆嫌だろうな?私を憎み、嫌い、呪っているだろうな?などと思いつつも、祈りを込めて何十通も作ります。返信がなかったらもう来年はやめよう。迷惑千万な通知だから・・・云々。私自身も、この時期は苦しみ、自省自戒を繰り返し、七転八倒、太宰治ばりに「冷や汗千斗」の思いで、真っ赤な郵便ポストの鬼のように裂けた口の中に、必死の思いで投函しているのです。

▽あにはからずや、ピンク色に染まったコスモスが色鮮やかな頃、宛名の「加治屋哲朗行」の行を二重線で消し、様に書き直して一通、また一通と返ってくるのです。

▽皆さん、必ず一言、二言自分の近況やらと、あたたかい私への励ましの言葉などを書き添えてくれます。「乙女の真心」「謙虚」はコスモスの花言葉です。来年も謙虚・乙女の真心で頑張ります。よろしく。

風声

アンケートの記入欄が黒の塗りつぶしになってしまいました。申し訳ありません。